

インフルエンザ予防接種

実施期間：令和2年10月1日～令和3年1月31日

子ども

- 対象者** 生後6か月～高校3年生相当(2002年4月2日～2003年4月1日生)
- 実施場所** 福岡市が指定した医療機関
- 実施方法** 受ける人(の保護者)が電話予約の上、医療機関で接種を受ける
- 自己負担** 1,000円(1人1回)

実施医療機関へ持参する物

- 予防接種を受ける子どもの住所、氏名、年齢が分かるもの(健康保険証、子ども医療証など)
- 13歳以上の子どもで保護者が同伴しない場合は、同意欄に保護者の署名が記入された予診票(福岡市ホームページからダウンロードできます)

高齢者

- 対象者** ①65歳以上
②60歳以上65歳未満で一定の障がいがある方(身体障がい者手帳1級相当)
※詳細は福岡市ホームページまたは東区健康課へお尋ねください。
- 実施場所** 福岡市が指定した医療機関
- 実施方法** 受ける人が電話予約の上、医療機関で接種を受ける
- 自己負担** 無料(1人1回)

実施医療機関へ持参する物

- 住所、氏名、年齢の確認のため『健康保険被保険者証』、『介護保険被保険者証』、または『運転免許証』のいずれか1つをお見せください。
- 上記『対象者②』に該当する方は、『身体障害者手帳の写し』または『診断書』を提出してください。

新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)のインストールをお願いします!

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、スマートフォンをお持ちの方は、接種を受ける前にインストールをしてください。※保護者の方のスマートフォンへもインストールをお願いします。

お問い合わせ **東区健康課 092-645-1078**

F's Report

— vol.3 —
2020(令和2)年10月

地域の声を市政に!

自民党 **新福岡**

福岡市議会議員 **東区**

ふじの哲司



ご挨拶

拝啓 清秋の候、皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、この度、令和2年度予算特別委員会と9月定例会で質問をいたしましたので、その内容を抜粋しましてご報告致します。

未だ新型コロナウイルス感染症は、日本全国で流行しております。感染拡大防止のためにも、新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」のインストールをお願い致します。

また、福岡市ではインフルエンザ予防接種の費用を助成します。対象は65歳以上の方、60歳以上65歳未満で一定の障がいがある方(身体障がい者手帳1級相当)は無料、生後半年から18歳のお子様は千円で受けられます。対象の方は是非ご利用頂きますようお願い致します。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

敬具

藤野 哲司

略歴

- 昭和56年 東区箱崎に生まれる
- 平成 6年 福岡市立箱崎小学校卒業
- 平成 9年 福岡市立箱崎中学校卒業
- 平成12年 福岡県立光陵高等学校卒業
- 平成16年 福岡大学法学部経営法学科卒業
- 平成16年 日栄通信工業株式会社入社
- 平成25年 福岡県議会議員東区 長裕海 秘書
- 平成31年 福岡市議会議員選挙 初当選

役職

- 福祉都市委員会 委員
- 都市問題等調査特別委員会 運営理事
- 九州大学移転・跡地利用対策協議会 副会長
- 福岡市都市計画審議会 委員
- 福岡市建築審査会 委員
- 福岡市開発審査会 委員
- 東消防団箱崎分団 分団員
- 箱崎まちづくり委員会 委員
- 箱崎交通安全推進委員会 理事
- 一般社団法人福岡青年会議所 会員

ふじの哲司市政相談所

〒812-0053 福岡市東区箱崎2-16-48

TEL 092-643-5200 FAX 092-643-5300

<https://fujino-tetsushi.jp/>



議 会 報 告

令和2年条例予算 特別委員会総会質疑 (一部抜粋)

学校トイレの洋式化について

Q 近年、一般家庭や公共施設でほぼ全てのトイレが洋式化され、和式トイレは急激に姿を消し、ほとんど見かけなくなった。しかし、本市の学校トイレはいまだに古い湿式の和式トイレが多く、老朽化対策や洋式化が進んでいない。子どもたちが毎日使うにもかかわらず洋便器が足りないという聞き、本市の小中学校における洋便器設置状況を尋ねる。

A 令和2年2月末現在の市立小中学校の大便器の総数は約1万5,000基で、そのうち洋便器数は約8,000基である。

要望 小中学校の洋便器は半分程度の整備にとどまり、洋式化が進んでいない。トイレが明るく清潔になると子どもたちは学校をきれいに使おうと考え、衛生面の意識が変化すると思う。老朽化対策のため古いものからスピード感を持って整備すべきである。子どもたちの意見をしっかりと聞いて洋式化や乾式化などの推進に取り組むとともに、学校ごとの現状を踏まえた整備の推進を強く要望する。

※令和2年度は管松小・名島小・千早小・香椎浜小・香椎下原小のトイレ改修の予定です。

活力ある地域商店街の創出、 特に商店街支援について

Q 福岡市では平成21年度から4年置きに商店街実態調査を実施しているが、直近の29年度の実態調査で明らかとなった商店街の課題は何か。

A 役員の担い手が不足している、次世代を担う若手がないといった人材の不足に関する事、また、集客の核となる店舗がない、業種構成に不足があるといった店舗の魅力に関する事が主な課題である。

Q 限りある予算の中で、市内に約130ある全てを支援することは難しいと思う。一律ではなく、積極的に活性化に取り組む意欲のある商店街への支援を重点的に行うべきかと考えるが、考え方を尋ねる。

A 本市では、新たな取組にやる気を持ってチャレンジする頑張る商店街を重点的に支援することとしているが、これまでは一定の資金や人材が備わっていることが前提とされたため、支援策を活用できる商店街に限られていた。そこで、平成30年度からは人材や資金が不足してもやる気があれば参画できる枠組みを設け、市が事業を企画し実施している。

Q 今後さらに活力を生み出すため、どのような施策を考えているのか。令和2年度の商店街支援に関する予算額と新規事業について尋ねる。

A 当初予算額は5,089万2,000円を計上している。引き続き、人材育成を図る商店街NEXTチャレンジャー育成事業や、集客や魅力向上を図るイベントへの支援などの施策を実施していく。また、新規事業として、国内外からの観光客の消費を取り込もうとする商店街を支援するため、商店街観光振興事業を実施することとしている。

Q 買物の多様化に伴い商店街の役割は変化して、活気にあふれた商店街の姿は失われつつある。これからは、以前のように小売店が並んでいた商店街のイメージを取り払い、時代に合った、地域に求められる商店街の在り方を再定義する必要があるのではないかと。特に、店主の高齢化や後継者の不在による商店の廃業が深刻化する中、空き店舗が増えシャッター通りとなる可能性のある商店街が増えると予想する。こうした状況を踏まえ、市としてこれからの商店街のあるべき姿をどのように考えているのか尋ねる。

A 活力ある地域商店街の創出には、商店街と地域の連携が不可欠であり、商店街が地域を支え、地域が商店街を支えるという好循環を生み出すことが必要だと考える。時代の変化とともに地域が求める商店街の姿も変化しており、小売店や飲食店だけでなく、病院や福祉施設、保育所など、地域が必要とする機能を備えた場であること、あるいは地域住民が集まりやすいコミュニティの核となる機能を備えた場であることなど、これからの商店街のあるべき姿は画一的なものではなく、地域によって異なるものになると考える。



令和2年9月定例会一般質問 (一部抜粋)

コロナ禍を踏まえた公園活用について

Q 公園の意義の一つであるレクリエーション機能に関しては、新型コロナウイルス感染の収束が見えない中、在宅勤務や旅行自粛等により自宅で過ごす時間が増え、運動不足の解消やストレス緩和などのために、公園を利用する市民がますます多くなると予想されるが、今後の公園においてレクリエーション機能の観点でどのような取組みが可能であるか尋ねる。

A 公園におけるレクリエーション機能は、散歩、遊び、休息、スポーツなどの形態があり、その効果は、体力の向上のみならず、心身の健康の保持にもつながるものである。これまでに多種多様な市民ニーズに応える形で、運動公園の整備をはじめ、ウォーキングコースや健康遊具の設置など、レクリエーション機能を備えた公園づくりを行ってきた。コロナ禍を踏まえた公園の活用を図るため、コミュニティパーク事業を推進するなど、今後とも柔軟な公園活用を地域との連携を図りながら進めていく。

藤野哲司市議(自民新福岡)は、「密」対策として野外公園の積極的な活用を提案。「WiFiを整備して野外オフィスのような環境整備をしてもいいのでは」と話した。

西日本新聞 9月7日朝刊に掲載されました

福岡空港の周辺環境対策について

Q 福岡空港が所在する自治体である福岡市としては、国に対して騒音対策の強化を訴えるべきであると考えているが、どのように対応してこられたのか。

A 空港の円滑な運営は、周辺地域の理解と協力に支えられていることから、騒音対策の強化は大変重要である。市は、住宅の防音工事や空調機更新工事の助成制度の拡充など、住宅や教育施設等の騒音対策の一層の強化を、国に要望している。

Q 福岡市の発展に資するためには、福岡空港のさらなる航空需要の増加と、それに合った空港機能の強化は必要なことであるが、それには地域の方々の理解と協力が不可欠であり、環境対策や環境整備を強化することが必要と考えますが、ご所見をお伺いする。

A 福岡空港は福岡市のみならず九州・西日本地域の成長を牽引する重要な公共インフラであり、世界でも屈指の利便性の高い空港として発展している一方で、空港が市街地に位置する故の騒音問題等を抱えており、空港の円滑な運営は、地域住民の理解と協力に支えられていることを決して忘れてはならないと考えています。飛行経路の直下に位置します、箱崎・管松地区をはじめ空港周辺地域におきましては、空港の機能強化による発着回数の増加等に不安の声があるものと受け止めており、空港と周辺地域との共生は益々重要になってくるものと認識しております。福岡市といたしましては、今後とも国や空港運営会社等と連携して、空港機能の強化に伴う課題やニーズを地域と共有しながら、空港と周辺地域との共利的な発展を目指して、周辺地域の環境対策と環境整備に取り組んで参ります。

要望 空港機能強化による発着回数の増加にあたり、周辺地域の方々と共生していくために、周辺地域の方々のさらなるご理解をいただけるよう取り組んでいくこと、国に要望するだけでなく、地域の課題やニーズに応じた対策を検討し、講じていただくよう要望する。